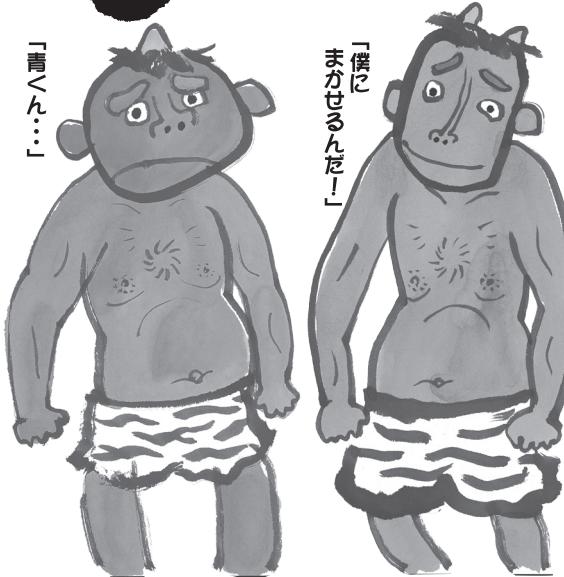


ファミリーミュージカル

ないた赤おに



「ないた赤おに」

山のがけに一人ですむ赤おには、村の人間と仲良くなりたいと考えました。ところが人間はこわがって、赤おには近づいてきません。

そこで、赤おには「ココロノ ヤサシイ オニノウチテス。 ドナタデモ オイデクダサイ。 オイシイ オカシガ ゴザイマス。 オチヤモ ワカシテ ゴザイマス。」と立て札を立てました。それでも人間は、赤おにがだましているのだと思い、近づいてきません。赤おには、とても悲しみ、その立て札を力任せにこわしていました。

すると、そこにひょっこりやってきた、友達の青おにが「村に行つて僕があはれるから、僕をボカボ力なぐれば、人間は君を『良いおに』だと思うだろう」と名案を考えます。そのとおりにすると、人間は赤おにを信頼し、毎日遊びに来るようになりました。

そして赤おには、とても楽しい日々をすごしました……。が心の中に、ぼつんと取り残されているものに気付きました。それは青おにのことです。赤おには、青おにの家をたずねましたが、そこには青おにの姿はなく、手紙が一枚残っていました。赤おにと青おにが会っていては人間に、赤おにも『悪いおに』と思われてはいけないので、しばらくここをはなれとのこと。

赤おには、だまって手紙を読みました。二度も三度も読みました。しくしくと、なみだを流して泣きました……。

原作:浜田 廣介

音楽:山浦 弘志

歌唱:坂田 かおり

脚色・演出:仲谷 一志

振付:近藤 勇人

照明:黒江 昭治

はじめに

『子供に純粋な感動を伝えたい』

『大人も楽しめて家に帰って家族の語らいのテーマにいう作品を舞台化したい』

『さらに、あらゆる会場で上演が可能であるエンタテインメントでありたい』

そんな作品をと考えた時、私達は「ないた赤おに」のミュージカル化を計画しました。

「日本のアンデルセン」と呼ばれた浜田廣介作品は善意に満ちたものがあり、このテーマこそ今の子供達に必要であると考えました。

原作に忠実に物語を進めながら、その言葉のリズムを大切にしたミュージカルとしての作品をどうぞお楽しみください。



きみが力ないとい ぼくも力ないい

きみがうれしいとい ぼくもうれしい

ともだちだがら ともだちだがら



ともだちだがら…